

問題

近年、人工知能の開発が目覚ましい速度で進んでいるが、人工知能が社会に及ぼす影響と課題について、具体例を挙げながら論じなさい。

解答のポイント

最近では様々な分野で人工知能の活用や実験が進められており、メディアで見聞きする機会も多いだろう。そうした実際の取り組みをもとに「具体例」を挙げていってみよう。また「影響と課題」については、人工知能のメリットとデメリットの両方を説明した上で論じてみるといいだろう。

解答例

近年、人工知能の発達が著しい。例えば囲碁や将棋において、人工知能がトッププロに勝利したことは記憶に新しい。その他にも、医療や介護における人工知能の導入推進、人工知能による小説や音楽の創作など、様々な分野で人工知能の活用や実験が試みられている。また、政府は『第5期科学技術基本計画』で「超スマート社会の実現」を提示しているが、その「超スマート社会」によって生み出される価値の一つとして人工知能との共生が挙げられている。このように、人工知能は今後一層私たちの身近なものになっていくだろう。

人工知能には、大量のデータを扱えること、人間のような疲労や先入観がないことなどの特徴がある。こうした人工知能が及ぼす影響として、社会がより暮らしやすいものになることが考えられる。例えば、医療の場で人工知能が症例などの膨大なデータをもとに診療することによって、病理医の負担の軽減や診断の効率化を図ることもできる。また人工知能を搭載した介護ロボットが実用化されれば、介護者不足のカバー、介護者の疲労の軽減など、介護問題の改善につながる。さらに囲碁や将棋では、人工知能が人間の先入観を打破するような戦い方で勝利する場面が見られた。このように先入観のない人工知能が、芸術における新たな価値や、既存の問題についての新たな解決策を生む可能性もある。

しかし、囲碁や将棋では人工知能が悪手によって敗北したこともあるように、人工知能の判断が常に最善であるとは限らない。医療や介護の場で人工知能の判断ミスが起これば、医療ミスや介護ロボットによる事故など、人命に関わるような被害が出かねない。また、現状では人工知能に関する法整備があまり進んでいないことも問題である。法律がないまま人工知能に関する訴訟が起これば、被害者への保障が滞るなどの問題が生じるだろう。人工知能が社会に及ぼす課題として、以上のような人工知能のミスや法律に関することが挙げられる。

人工知能に関する法整備については、政府の知的財産戦略本部が人工知能の創作した小説や音楽などの権利保護を進めることを決めたが、それに加えて、先述した人工知能のミスによる被害も想定して取り組むことが求められる。人工知能のミスという課題を改善するために、産学官で連携して人工知能の精度を上げていくことはもちろん必須だが、それによって人工知能が全くミスをしなくなると保証することは極めて難しいからだ。よって、人工知能のミスによる被害について、責任の所在の明確化、罰則の制定などに現在のうちから取り組んでいくことが必要である。その際、国内の産学官で協議する他、人工知能の発展が世界的に進んでいることも考慮し、諸外国と連携することも重要になるだろう。

人工知能の活用や実験を進めていくだけではなく、人工知能のミスや法律に関する課題にも現段階から取り組んでいくことで、人工

知能による暮らしやすい社会が実現するだろう。

以上
(約 1,200 字)